

長谷川慶太郎著「2017 年 世界の真実」(WAC BUNKO)ワック株式会社 2016 年 8 月 7 日刊を読む

1. 論理的に話をする訓練をするドイツの幼年学校

- (1) 吉田茂の補佐役として活躍した白洲次郎は、立派な英語をしゃべることによって有名だった。「立派な英語」とは「米語」でなく、「クイーンズ・イングリッシュ」のことである。
- (2) ①クイーンズ・イングリッシュをしゃべる人はアメリカで高く評価される。
②政治家になるには法律に通じなければいけないので、弁護士から政治家になるケースが多いが、政治家を志す青年は必ずスピーチレクチャーをつける。
③スピーチができなければディベートに参加できないし、ディベートの場で生まれ丸出しのなまった米語をしゃべったのでは駄目である。
④クイーンズ・イングリッシュをしゃべらなければいけない。訓練しないとしゃべれないから、クイーンズ・イングリッシュを勉強する。
⑤このスピーチレクチャーはフィー(費用)が高い。
⑥1 時間に 1000 ドルはとる。
⑦そういう点から言うと、アメリカの政治家は日本の政治家よりも知識レベルは高いし、日本人はそういうことについて神経が細かくない。
- (3) ①余談についてスピーチの話をする、第一次大戦前、ヨーロッパに日本の陸軍が使節団を送って視察した。
②その報告の中で、大規模な演習が終わったあと、演習のプロセスを指揮する統裁官(演習の最高指揮官)が原稿もなく、正確かつ詳細に成果を論じたことは感に堪えない、というくだりがある。
- (4) ①ドイツの高級指揮官が原稿なしで講評ができるのは、論理的にきちんと話をする訓練を幼年学校からやっているからだ。
②日本でそういう教育はなかった。
③今の自衛隊もやっていない。
④だから、しゃべるのが下手だ。
⑤なめらかにしゃべっていると思ったら、みんな原稿を読んでいる。
- (5) ①私はこれまで二百数十冊の本を書いて来たが、ほとんど全部テープに吹き込んだものを文字起こしたものだ。
②自分で書いてまとめた本はない。
③手書きで原稿用紙の升目を埋めると 1 時間で 2000 字が限度だ。
④ワープロを使えば 4000 字、テープに吹き込むと 13000 から 4000 字である。
⑤この生産性の差は大きい。
- (6) ①今から 30 年以上前、私はこう考えた。
②コンピュータが発達して、そのうちに音声識別装置が実現する。
③そうなったらコンピュータに向かってしゃべると、そのまま文章になって出てくる。
④「ならば」と、しゃべる訓練を始めた。

⑤何をやったかという、テープに吹き込んで聞き直すのである。

⑥最初は使い物にならないレベルだったが、改善できた。

(7)①大事なことはまず声だ。

②言葉尻がはっきりしていて、一つひとつの単語が明確に聞き取れる言葉をしゃべる。

③また、二度、三度、同じ言葉を使ってはいけない。

④それから、論理的な組み立てが必要である。

⑤いずれも訓練で、できるようになる。

P75 ~ 77

2. 人口減少に対応するインフラの縮小と学制改革

(1)①日本全国いたるところでインフラの整備が必要な場所が多いが、同時にやらなければならないのは整備の縮小である。

②例えば人口が減っている地域で上下水道をどうやって維持するかについて、いろいろな研究が進められているけれど、なかなかうまくいかない。手っ取り早いのはコンパクトシティだろう。

③人が集中して住めば水道だけでなく、医療にしろ何にしろ、コストを下げられる。

(2)①今、それを進めているのは青森市だ。

②青森駅前を再開発し、6階建てから8階建てのマンションをつくって、郊外に住んでいる人を移す。

③そうすれば、医療施設、学校、郵便局、スーパー等々、都市機能を何もかも集約できる。

④そういう意味での国土創生が大事である。

(3)①それから、意外なことかもしれないが、もう一つ、大事なことは学校制度の改革である。

②今、6・3・3・4制だが、戦前の6・5・3・3制に近いものにすべきだ。

③というのは、特に理工系に顕著なのだが、技術水準が上がったので大学の4年間では足りず、最低でもマスターまで進んで初めて専門家になれる。

④中等教育の期間を減らし、高等教育の期間を増やすことが必要である。

(4)①ただし、教育システムを変えるときに注意すべきは格差の問題だ。

②教育の格差に貧富の格差を持ち込んではいならない。

③ということになると、大学の4年を6年にする代わりに、大学に入ったときにチェックして、経済的に難しい優秀な学生には返さなくてもいい奨学金を出す。

④こういう制度を整備しなければしょうがないだろう。

P218 ~ 220

3. 日本人はデフレ恐怖症から脱却せよ

(1)①日本は20世紀の後半、一発の銃も撃たず、戦死者がいらない。

②その結果、日本の国民に世界一の長寿を保障できた。

③日本の男性は昭和20年の平均寿命が23.9歳だった。

④あの頃は「人生50年、軍人半額」といわれたが、統計が示す事実はずっと過酷で、軍人は半額にもなっていない。

⑤それが今、日本の男性の平均寿命は80.5歳である。

- (2)①私がイギリス人に向かってよく言うことがある。
- ②「あなた方、イギリスは 19 世紀に平均寿命を 30 歳代の前半から 60 歳代後半に延ばした。
- ③それは産業革命に成功したからだ。
- ④ところが翌世紀、つまり 20 世紀は 100 年間かかって、平均寿命が 10 年しか延びていない。
- ⑤今、かろうじて 70 歳代ではないか。
- ⑥日本人は男でも 80.5 歳だ。どうしてそんな違いが出たのか。
- ⑦最大の理由は第二次大戦が終わったあと、日本が一回も戦争していないからだ、戦争をしなければ国民の平均寿命は延びる」
- (3)①戦争で死ぬのは前線に立つ兵隊だけではない。
- ②後方の国土にいても「戦死」はある。
- ③空襲で死ぬ。
- ④それから、幼子が栄養不良で死ぬ。
- ⑤それが戦後はなくなった。
- ⑥だから、人間が長生きして、生活が豊かになった。
- ⑦こんなにいいことはない。
- ⑧それがデフレなのである。
- (4)①日本が世界で一番デフレに強い体質を持っている。
- ②その成果が 21 世紀になって、ようやく表面に出てきた。
- ③こういうふうにお考えになっていただければいいだろう。
- (5)①ところが、日本人はデフレ恐怖症にかかっている。。
- ②だから、日本でデフレは怖いものとして扱われているが、デフレは決して怖くない。
- ③デフレ恐怖症から脱却すべきである。
- (6)①そのためには「デフレは怖くない」ことを証明しなければならないが、それがなかなかできない。
- ②最大の理由は政治家にある。
- ③デフレになると、売り手が弱く、買い手が強い。
- ④政治家は売り手を相手にして政治資金をもらっている。
- ⑤だから、「デフレは悪い」と言わざるを得ない。
- ⑥それが政治家の立場だ。
- ⑦しかし、繰り返すが、デフレは悪くもないし、怖くもない。
- ⑧われわれはデフレを利用することで、新しい時代を切り開けるのである。

P218 ~ 222

<コメント>

ドイツの幼年学校の教育は参考になる。また、論理的な話し方を心掛けて、200 冊余りの本を口述筆記で書き記した 1927 年生まれの長谷川先生には頭が下がる。8 月に 2 冊の本を出された理由がよくわかった。日本の学校制度を 6533 制にする案は大いに検討すべきだ。

— 2016 年 8 月 7 日(日) 林 明夫記 —